この1冊でFC琉球さくらのことが分かる活動報告書

# Blooming

FC RYUKYU SAKURA

## さくらが咲くとき、
## 未来が動き出す

2025 SEASON

# FC RYUKYU SAKURA

2025 SEASON

# CLUB IDENTITY

## PHILOSOPHY

### カチャーシーフットボールで、世界へ。

**01**

**“ゆいまーる”**

結いの力、絆

- 仲間への思いやり、厳しさと支え合いの両立。
- 沖縄の歴史と誇りを背負い、地域を照らす。

**02**

**“闘うむさん”**

楽しむ強さ

- 苦境すら楽しみに変え、挑戦し続けるアグレッシブさ。
- この島の持つ力強さを表現する。

**03**

**“This is me”**

美しく、自分らしく

- 女性が自己表現できる、誰もが胸を張れる社会。
- 女性たちに可能性と希望を届ける。

## EMBLEM / LOGO

FC RYUKYU SAKURA

FC RYUKYU OKINAWA

FC琉球OKINAWA（男子チーム／右）のエンブレムでは、牙を剥くオスのシーサーの頭上に琉球王朝の玉冠が輝いています。FC琉球OKINAWAの攻撃的なサッカースタイルと、沖縄からJリーグの頂点を目指すという強い覚悟を表現しています。また、FC琉球さくら（女子チーム／左）のエンブレムでは、メスのシーサーと、頭上には琉球王妃の伝統的な髪型「ウチナーカンプー」に、さくらの花びらをデザインしました。沖縄のさくらのように日本一早く花咲き、沖縄の人たちの心を明るくしたいという気持ちを表現しました。



## ABOUT US

# 沖縄の未来をつくる女子チーム

FC琉球さくらは、選手一人ひとりが社会課題の解決に率先して取り組んでいくことによって、その姿に勇気づけられる人や、共に取り組む人を増やしていくことを目指しています。本誌では、FC琉球さくらが、「沖縄の未来をつくる女子チーム」となるために、どのような想いで、どのような取り組みを行っているのかをご紹介します。

# BUILDING THE FUTURE

## 会長が見据える、未来のカタチ

**琉球フットボールクラブの代表取締役会長を務める柳澤大輔が、FC琉球さくらへの熱い想いと、目指す「未来のカタチ」を語ります。**

※柳澤は、2026年2月1日付で代表取締役会長に就任しており、取材は代表取締役社長時に行っています。

選手たちの懸命な姿こそが、多くの人の心を動かす一番の原動力となります。

琉球フットボールクラブ株式会社
代表取締役会長
**柳澤 大輔**

株式会社カヤック（面白法人カヤック）の代表取締役CEOを務める。1998年に学生時代の友人と共に同社を設立。神奈川県鎌倉市に本社を置き、ゲームアプリや広告などのコンテンツを数多く発信している。

私が琉球フットボールクラブの経営に参画してから、早いもので約2年が経ちました。この沖縄の地で、スポーツが持つ力の大きさを日々強く感じています。「応援するチームを持つこと」が人生の幸福度を高めるというデータもあるそうですが、勝利に歓喜し、敗戦に本気で悔しがる、そのような感情の揺れ動きこそが、明日への活力になります。地域のクラブチームは、まさに皆様の日常に寄り添う、かけがえのない存在であると言えるでしょう。このようなスポーツが持つ魅力は、「面白法人」である私たちの企業活動とも高い親和性があると確信しています。

その中で、FC琉球さくらには、発足当初から大きな可能性を感じていました。沖縄はサッカーに打ち込む女子児童の数が全国的に見ても多く、チームの発足と同時に、日本代表選手を輩出するようなトップレベルのアカデミーがチームの傘下に加わってくれました。そして、何より心強かったのが、パートナーの皆様にご挨拶に伺う中で直接いただいた、「女性の活躍を応援したい」という温かいお言葉です。沖縄が抱える様々な社会課題に対し、女性を支えることで地域に貢献したいという皆様の強い想いに触れ、このチームが担うべき役割の大きさに、身が引き締まる思いでした。仕事と両立しながら、ひたむきにボールを追いかけるFC琉球さくらの選手たちの姿を見ていると、胸が熱くなります。彼女たちの懸命な姿こそが、多くの人の心を動かす一番の原動力になると信じています。

皆様の応援を背に、チームは着実に力をつけ、2024年は九州2部優勝、2025年は九州1部で準優勝となりました。しかしながら、競技成績以外の加盟基準をクリアすることができず、目標としていた「なでしこリーグ」への昇格は2027年以降に持ち越されることになりました。また、さらにその先へ進み、私たちが目指す「日本一」の頂に到達するためには、練習場やクラブハウスといった質の高い練習環境の確保が不可欠です。八重瀬町とのホームタウン業務提携という一歩を踏み出すことはできましたが、ハード面の整備は引き続き喫緊の課題であり、選手たちが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整えるために、ぜひ皆様の力もお貸しいただきたいと考えています。

私たちの前には大きな希望の光が灯っています。その象徴が2031年の利用開始を目指す那覇市奥武山公園の新スタジアム計画です。この素晴らしいスタジアムが完成する頃、女子サッカーのトップリーグである「WEリーグ」で堂々と戦うFC琉球さくらの選手たちに、満員の観客が熱狂的な声援を送っている。そんな未来を想像するだけで、心が躍ります。この夢を、私たちは全力で実現させます。

また、FC琉球さくらは、ただサッカーが強いだけのチームを目指しているのではありません。発足当初から「地域に貢献するチーム」でありたいと願ってきました。選手たちもその想いを共有し、地域活動に積極的に参加してくれています。2025年からは、社会課題の解決を目指す「ちむぐくるプロジェクト」がスタートしました。パートナーの皆様から、「選手と一緒にこんな地域貢献がしたい」といったお声をより多くかけていただけるよう、チームとして発信力をさらに高め、この共創の輪を広げていきたいと思っています。

FC琉球さくらは、本気で日本一を目指せるチームです。沖縄の未来をもっともっと明るく照らす存在になりたい。そして、すべての女性が自信と誇りを持って輝ける社会の実現に貢献したい。この夢への道のりを、皆様と一緒に歩んでいければ幸いです。

1 2024年に前社長の倉林啓士郎からバトンを受け継ぎ、琉球フットボールクラブの代表取締役社長に就任

2 2031年の利用開始を目指す那覇市奥武山公園の新スタジアム（イメージ図）

# HEAD COACH'S MESSAGE

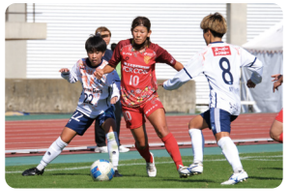
## 監督が語る、チームが目指す姿

**FC琉球さくらの監督を務める花田亜衣子が、パートナーの皆様への感謝とともに、「闘うむさん」の精神で戦い抜いた今季の成果と、来季に向けた決意をお伝えします。**

日頃よりFC琉球さくらを温かく支えてくださるパートナー企業の皆様、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。今季は、九州女子サッカーリーグ1部準優勝と悔しい結果に終わりました。監督としてこの結果を厳しく受け止めています。この悔しさを胸に、ハングリーに勝利を求めること・闘うことをベースに、ピッチでも地域社会でも選手一人ひとりの魅力が輝くチームになります。その先に必ず「なでしこリーグ昇格達成」の喜びを、皆様と分かち合える未来があると確信しています。

私たちFC琉球さくらは今季、「闘う」と「うむさん」を掛け合わせた「闘うむさん」というスローガンを掲げていました。「うむさん」とは沖縄の言葉で「楽しい」「面白い」といった意味があります。ピッチの上では攻撃的なサッカーを信条とし、激しく果敢に戦いながらも、心は常に楽しみ、笑顔を忘れない。そんなチームでありたいという願いを込めました。

なぜ私が「笑顔」や「楽しむこと」にこだわるのか。それは私自身の現役時代の経験が原点となっています。かつて所属していたチームで、3試合を残して降格が決まってしまった絶望的なシーズンがありました。しかし、私たちはそこで「最後は思い切り楽しもう」と決め、全員が笑顔でピッチに立つことを選びました。すると、日本代表選手を擁する格上の相手に対し、奇跡のような勝利を収めることができたのです。真剣勝負の最中であってもその状況を楽しみ、ミスが起きても下を向かず、互いにカバーし合って仲間と笑う。シリアスな場面でも笑い飛ばせるような強さを選手一人ひとりが持つことが、チームとしてのパフォーマンスを引き出し、見る人の心を動かす「本当の強さ」に変わるのだと、私はその時学びました。



11月29日、今季最終節で監督の古巣である福岡J・アンクラスと対戦

今季を振り返れば、怪我人が続出したり、ミスからの失点で勝ちを逃す試合があったりと、決して順風満帆とは言えませんでした。しかし、そんな時こそ「闘うむさん」の精神に立ち返り、私たちは笑顔で前を向き続けました。なでしこリーグへの昇格は残念ながら来季以降へ持ち越しとなりましたが、来季は開幕から圧倒的な強さでリーグを駆け抜け、万全の状態で入れ替え戦へ挑めるよう、すでに準備を進めています。

現在のFC琉球さくらの選手たちは、とにかく明るく、ユーモアに溢れ、前向きなエネルギーに満ちています。皆様と同じように社会人として働きながらも、グラウンドでは疲れも見せず、目を輝かせてボールを追いかけています。また、「ちむぐくるプロジェクト」への参加など、地域貢献活動にも自主的に取り組む彼女たちの姿を、監督として誇らしく思います。限られた時間の中でトレーニングに励み、地域のために尽力する彼女たちには、社会を変えるエネルギーがあると信じています。

私たちの現在地は、目指す頂の入り口に過ぎません。理想とする姿に対し、完成度はまだまだです。しかしそれは、「伸びしろ」しかないということです。沖縄の太陽のように明るいこのチームには、無限の可能性があります。私たちはどんな時も下を向かず、皆様という最強のパートナーと共に、ワクワクするような挑戦を続けていきます。見ているだけで元気になれる、笑顔で躍動する選手たちの姿に、これからもどうぞご期待ください。

**笑顔で躍動する選手たちの姿を見せたい。**

FC琉球さくら 監督

**花田 亜衣子**

高知県出身。福岡J・アンクラスで15年間プレーし、なでしこリーグ通算198試合に出場。高校教諭を経てオーストラリアへ渡り、現地の女子サッカーリーグでプレーするとともに、指導者としての経験も積む。帰国後の2024年、FC琉球さくらの監督に就任した。

FOCUS

# BUILDING OKINAWA'S FUTURE

## 沖縄の未来をつくる

### 様々な社会課題を抱える沖縄

沖縄県は、美しい自然と豊かな文化の裏側で、多岐にわたる深刻な社会課題に直面しています。特に「体験格差」や「経済格差」は構造的な問題となっており、相対的貧困率と、ひとり親世帯出現率はともに全国ワーストレベルという極めて厳しい状況にあります。このような経済的な課題は、子どもの教育や健康、安全にも影を落としています。例えば、子どもたちの健康面では、県内小学5年生女子の全国体力テストの結果が2024年度に過去最低を記録しています。また、安全面での課題も深刻です。窃盗やひったくりなどを含む県内刑法犯認知件数は2024年に過去最多となったほか、飲酒運転事故率も全国ワースト1位となっており、交通安全への意識を抜本的に向上させることが喫緊の課題となっています。これらの課題の背景には、子どもの貧困問題をはじめとする複雑な要因が絡み合っています。



## ちむぐくるプロジェクトを始動

FC琉球さくらは、ホームタウンである沖縄県の社会課題解決に貢献すべく、2025年に「ちむぐくるプロジェクト」を始動しました。「ちむぐくる」とは、沖縄の言葉で「真心」を意味します。このプロジェクトは、沖縄が抱える様々な課題に対し、パートナー、行政、そして地域の皆様の協力を得ながら、サッカークラブとして具体的なアクションで応える活動であり、「沖縄の未来をつくる女子チーム」としての役割を果たすものです。FC琉球さくらの選手たちは、女性アスリートとしての視点からも、これらのプロジェクトに積極的に参加し、地域社会の発展に貢献しています。

### 子どもたちの未来を育む

「ちむぐくるプロジェクト」では、未来を担う子どもたちの「体験格差」や「経済格差」の解消を目指す取り組みを行っています。その一環として、「夢ボールプロジェクト」を実施しており、沖縄県内の全小学校へ、子どもたちがデザインしたサッカーボール合計1,052球を寄贈しました。FC琉球さくらの選手たちが小学校を訪問し、贈呈式と交流を実施。「夢を持つことの大切さ」を講話で伝え、ボールを使った交流を通じてスポーツの楽しさを広めています。

また、「ゆいゆいSMILEプロジェクト」と題した学校訪問活動も精力的に展開しています。クラブコミュニケーターの上原慎也や公式マスコットのジンベーニョが、小学校、中学校、こども園、特別支援学校などを訪問し、挨拶運動や体育の授業に参加することで、運動の楽しさを伝えています。2025年は計81回の活動を行い、FC琉球さくらの現役選手も職業講話を通じて、夢や目標に挑戦する重要性を説き、生徒たちと交流を深めました。さらに、FC琉球OKINAWAのホームゲームでは、小学生以下の子どもたちをホームゲーム全試合に無料で招待する「キッズフリーパス」を実施。プロの試合を肌で感じる機会を提供することで、子どもたちの夢や感動を育んでいます。

食の支援活動にも注力しています。その一環として、ステーキハウス88Jr.と共同で高校生

1 小学生にスポーツの楽しさ、夢を持つことの大切さを伝える「夢講話」
2 沖縄県内の全小学校へ小学生がデザインしたサッカーボールを寄贈した「夢ボールプロジェクト」
3 沖縄の子どもたちがプロの試合に触れることで夢や感動を得る機会を提供する「キッズフリーパス」

以下を対象に特別価格で食事を提供する「ジュニア食堂」を開催しました。FC琉球さくらの現役選手やジンベーニョも来店し、子どもたちと触れ合いながら食事を楽しむ有意義な時間となりました。また、ホームゲームの場外ブースでは「フードドライブ」を実施しました。集まった食品は株式会社琉球新報社・日本郵便株式会社沖縄支社が共同で運営を行う「おきなわこども未来ランチサポート」へ寄贈することで、県内の子ども食堂などに活用されています。

## 安全・安心な地域社会を支える

地域住民の「安全意識の向上」を目指した活動も展開しています。その取り組みの一つである「ゆいまーるパトロール」では、ファン・サポーターや地域住民の皆様と協力し、ランニングをしながら夜間の防犯パトロールを実施することで、地域の安全意識向上と住民の健康増進に寄与しています。また、2025年5月と6月に株式会社プロトソリューション（グーネット沖縄）や宜野湾警察署・宜野湾地区交通安全協会と共同で開催した「交通安全教室」では、2025年度に小学校に入学した新1年生を対象に、警察官と共に横断歩道の渡り方などの交通ルールをレクチャーし、事故防止と交通安全意識の向上に貢献しました。

## 美しい自然環境を守る

「海への愛着」が全国1位という沖縄の美しい海や自然を守るため、クリーン活動にも力を注いでいます。地域の方々と楽しく触れ合いながら、捨てられたごみを回収し、リサイクルやアップサイクル活動を行うなど、環境美化と海洋保全に取り組んでいます。

また、日本ユネスコ協会連盟の支援をもとに、沖縄の子どもたちへの「体験格差是正」を目的とした、沖縄県ユネスコ協会・一般社団法人しまぬわとFC琉球さくらによるビーチクリーン活動も行いました。イベント当日は子どもたちが楽しめるようにビーチクリーン活動とBBQやサッカー体験など体を動かす取り組みをセットにすることで、子どもたちの笑顔溢れる機会の提供にもチャレンジしました。

4 高校生以下のお子様を対象に特別価格で食事を提供した「ジュニア食堂」
5 多くの方にご参加いただいた「ゆいまーるパトロール」
6 海難事故防止を目的とした「海の日パトロール」

2025年（1月1日から12月31日の期間）において、「ちむぐくるプロジェクト」では、累計179回、約39,100人を対象とした活動を展開しました。FC琉球さくらは、これらの多岐にわたる社会貢献活動を通じて、スポーツの力で子どもたちに夢や希望を与えつつ、安全で安心な地域社会の実現にも積極的に貢献し続けています。

# BEYOND THE EXPERIENCE

## 参加選手たちの声

**「ちむぐくるプロジェクト」への参加が、選手たちのモチベーション向上にも大きく寄与しています。**

No. 10 | Name 伊藤 美菜子

「繁多川公民館子どもの居場所」の小中学生の皆さんと一緒に、ビーチクリーンを行いました。クリーン活動の前に、リレー形式のアイスブレイクを行ったことで、子どもたちとの距離もすぐに縮まりました。予想とは違い、とても積極的にゴミを拾ってくれて、感動したのを覚えています。たばこの吸い殻などの小さなものから、大量のペットボトルなど、1時間程度でしたがたくさんのゴミが見つかりました。自然豊かで美しい沖縄の海や街から、ゴミがなくなるといいなと感じました。クリーン活動終了後には、子どもたちと一緒に海水浴を楽しみました。最高の笑顔を見ることができて、私自身もパワーをもらいました。スタッフの皆様もとても温かく、人のつながりの大切さを感じました。沖縄の自然や人のために、私たちができることをこれからも続けていきたいと思います。

No. 11 | Name 小島 千明

ホームタウン活動を通して特に印象に残っているのは、サッカー教室を開催した際に、短い時間でも子どもたちの成長が見えたり、周りの大人の方々も含めてみんなが笑顔になっている瞬間を目の当たりにできたりしたことです。サッカーが苦手だった子が、教室が終わる頃には「もっとやりたい!」と楽しんでくれるようになったり、最初は乗り気ではなかった大人の方が次第に子どもたちと一緒にサッカーを楽しんでいる姿を見たりすると、サッカーは年齢に関係なく、たくさんの人を笑顔にできるものなのだと改めて感じることができました。たくさんのホームタウン活動を行う中で、関わっていただいたすべての皆様の笑顔が、私にとって一番心に残っています!

No. 3 | Name 橋本 祥子

石垣島や宮古島といった離島でのサッカー教室では、子どもたちが想像以上にサッカーへ強い興味と情熱を持っていることに驚かされました。試合を観に行くことが容易ではない環境にありながらも、FC琉球さくらを知って応援してくれていることが純粋に嬉しかったです。こうした離島での取り組みが広がり、体験格差の解消につながっていけばと思います。また、ビーチクリーンでは、普段私たちを楽しませてくれている沖縄の海が、一人ひとりの心がけと行動によって守られているのだと実感しました。自分のゴミを持ち帰ることはもちろん、流れ着くゴミを拾う人がいるからこそ、美しい海が保たれています。FC琉球さくらの選手として行動し発信することで、この意識が広がり、より多くの人が沖縄の海を守る輪に加わってくれることを信じて、今後も地域のための活動に積極的に取り組んでいきたいです!

# LET'S GO TOGETHER

## 描く夢の実現に向けて

**パートナーの皆様の支えがあるからこそ、
私たちFC琉球さくらは、
描く夢の実現に向けて歩むことができます。**

## ユニフォームには沖縄伝統の染色技法「紅型」を採用

ユニフォームのデザインに使用されている紅型（びんがた）模様は、沖縄県那覇市出身の紅型作家、新垣優香氏によるデザインです。紅型は、琉球王朝時代から続く「顔料」と「染料」を併用した染物の総称であり、沖縄を代表する伝統工芸の一つとなっています。「びん」は色彩、「がた」は模様を意味しており、紅型の特徴でもある強く鮮やかな色使いは、「沖縄の未来をつくる女子チーム」のコンセプトを体現しています。



## PARTNER LIST

### ワークライフパートナー ゴールド

さくらインターネット株式会社
株式会社カヤック
株式会社タープ不動産

### サステナブルグロースパートナー

株式会社エッジ・インターナショナル

### ワークライフパートナー シルバー

拓伸会 拓南グループ
株式会社CARTA KNOT
株式会社タープホールディングス
株式会社タープアンドリゾート
株式会社Room-up
サンクスラボ株式会社
株式会社薬正堂（すこやか薬局）
株式会社アールジェイワークス
三盛産業株式会社
医療法人陽心会 大道中央病院
株式会社首里石鹸
日琉株式会社
株式会社仲本工業
株式会社琉球銀行
日本トランスオーシャン航空株式会社
リゾーツ琉球株式会社
株式会社宮平乳業
株式会社ナーサリープラットフォーム
スカイウェルネススポーツ
株式会社爽健グローバル（笑顔道グループ）

### ワークライフパートナー ブロンズ

小野建沖縄株式会社
株式会社沖縄ポッカコーポレーション
有限会社ひかり部品店
株式会社日建ハウジング
株式会社カヤックゼロ
有限会社寿ランド

### ゆいまーるパートナー さくらゴールド

株式会社ソルパック
全国共済農業協同組合連合会
株式会社健食沖縄
BX沖縄文化シヤッター株式会社
セブンバイセブン石垣

### ゆいまーるパートナー さくら

工藤俊一（くどう動物病院）
中部観光バス株式会社
株式会社TEACH PLUS
株式会社IGNIS SECURITY
琉球cafe Isana
医療法人球陽会 海邦病院
株式会社good6
株式会社眞拓電気
株式会社CODREA
株式会社OneLife
株式会社福地組
ふぐ出汁創作麺 隆福
有限会社創建設計事務所
株式会社88インターナショナル
株式会社SHIMAN-CHU REPUBLIC
as It株式会社
株式会社ビートレーディング
株式会社新星テクノ
株式会社丸昇物産
かるろす河野貴峰

SPECIAL FEATURE: OUR PARTNERS

# THE ORIGIN OF "SAKURA"

## 「さくら」の始まり

**ネーミングライツ（命名権）によりチーム名の「さくら」にその名を冠し、
FC琉球さくらの発足当初からワークライフパートナーとして力強く支え続けている、
さくらインターネット株式会社。
共に歩んできたこれまでの道のりと、パートナーシップを通じて描く未来について、
同社の島袋瑞樹様（社長室 コミュニティマネージャー）に
熱い想いを語っていただきました。**

さくらインターネット株式会社
社長室 コミュニティマネージャー

**島袋 瑞樹**

沖縄県出身。沖縄工業高等専門学校を卒業後、ニュースサイトのバックエンドエンジニアを経て、2020年2月にセールスエンジニアとしてさくらインターネット株式会社入社。東京支社で勤務後、沖縄県那覇市にUターンし、沖縄拠点であるSAKURA innobase Okinawaにて、コミュニティマネージャーを務める。

### Q.1

**FC琉球さくらを支援しようと決めた「きっかけ」を教えてください。**

**A.「沖縄の未来をつくる」というコンセプトと、当社の理念が共鳴しました。**

私たちさくらインターネット株式会社は、インターネットによって熱量を持って挑戦するすべての人の“「やりたいこと」を「できる」に変える”という企業理念のもと、社会とお客様を支えるデジタルインフラを提供しています。北は北海道、南は沖縄まで日本全国に拠点を持ち、地域に根差した取り組みを続けてきました。その中で、FC琉球さくらの掲げる「沖縄の未来をつくる女子チーム」というコンセプトに強く共感しました。当社が得意とするデジタル領域と、FC琉球さくらが持つスポーツの力。この二つを掛け合わせることで、「挑戦と希望の循環」を生み出したいと考え、ワークライフパートナーとしての支援を決めました。

### Q.2

**女子サッカー選手の活躍や、女子サッカーという競技にどのような印象をお持ちですか。**

**A. 仕事と競技を両立させ、ひたむきに挑戦する姿に感銘を受けています。**

正直なところ、以前は女子サッカーといえば「なでしこジャパンのワールドカップ優勝」という華やかで大きな出来事しか知らず、少し遠い世界という認識でした。しかし、FC琉球さくらの選手たちが、厳しいトレーニングをこなしながら、それぞれの仕事や個性溢れる活動を両立させていることを知り、その認識は大きく変わりました。フィールドは違えど、キャリアに真摯に向き合い、挑戦を続ける彼女たちの姿勢からは、私たちも多くの刺激をいただいています。女子スポーツを支援する意義を、今改めて強く感じています。

### Q.3

**これまでの活動の中で、特に印象に残っているエピソードはありますか。**

**A. 石垣島の子どもたちと、サッカーとプログラミングで交流したイベントです。**

パートナーとなり2年目を迎えた2025年度は、石垣島でのプログラミング教室や初のホームゲーム開催支援、7月の協賛試合に参画しました。またワークライフパートナーとして毎試合フラッグに当社ロゴを掲示していただくなど、数多くの連携を実施することができました。中でも特に心に残っているのが、2025年2月に選手と共同で実施した石垣島の小学生を対象としたイベントです。選手による「PK教室」の後、当社社員による「PKゲームを作るプログラミング体験教室」を実施しました。サッカーが苦手だった子どもが「選手に褒められてサッカーが好きになった」と笑顔を見せたり、プログラミング未経験のサッカー少女が、憧れの選手にキーボードの使い方を教えてもらいながら笑顔でゲームを完成させたりしていた姿は、今でも鮮明に記憶に残っています。

## 選手の成長や、FC琉球さくらが大きく花開くまでの道のりを、私たちは多くの皆様と共に、これからも全力で応援し続けます。

選手が子どもたちに明るく寄り添うところを見て、普段の試合などでのコミュニケーション力を活かしながら、地域の皆様と親身になって関わる姿に感銘を受けました。また、子どもたちが、サッカーとITという異なる領域で、目を輝かせながらチャレンジする姿にも感動しました。パートナーとして選手と共に取り組む中で、私たち自身も学びや勇気をいただく場面は多く、この力こそが沖縄の社会課題を明るく照らす原動力になると感じています。

### Q.4

**パートナーになったことで、社内外にはどのような変化がありましたか。**

**A. 全社的なプロジェクトへと発展し、社員の成長や新たなつながりが生まれています。**

2年目に入り、取り組みは全社プロジェクトに拡大しました。サッカーファンだけでなく、FC琉球さくらのコンセプトに共感し、沖縄の社会課題解決に関心を持つ社員も参画しています。社内では普段経験できない業務を通じて、社員の成長や部門横断の交流が生まれています。また、マーケティングの経験がない社員が、広告換算値等の効果検証を定量的に行うことなどによって新しい分野の知見を得ることができ、自身の通常業務に還元できる新しいスキルを身に付ける機会にもなっています。また、社外からは「『FC琉球さくら』のさくらは、『さくらインターネット』のさくらなのですね」という声をいただくことが増えました。沖縄での活動を通じて、認知の広がりと、確かな手応えを感じています。

### Q.5

**FC琉球さくらとのパートナーシップを通じて実現したいことや、クラブへの期待をお聞かせください。**

**A.「スポーツ×インターネット×社会貢献」の新しいモデルを、沖縄から世界へ発信していきたいです。**

今後は、スポーツとITを通じて世界とつながる機会と可能性を広げ、FC琉球さくらをロールモデルとして、「スポーツ×インターネット×社会貢献」という新しいモデルを発信していくことにチャレンジしたいと考えています。競技と社会貢献を両立するチームづくりを通じて、女性や若者が夢を描ける持続可能な社会をFC琉球さくらと共創していきたいですね。クラブには、なでしこリーグ・WEリーグへの昇格、そして各カテゴリで常に上位を争うチームになることを願っています。併せて、日本代表クラスの選手を輩出できるような育成環境を整えることで、沖縄女子サッカー界の成長を後押しすること、また、県内企業と連携して社会課題に挑む姿を継続的に発信していくことを期待しています。

その挑戦の過程で、選手の成長やFC琉球さくらが大きく花開くまでの道のりを、私たちは多くの皆様と共に、これからも全力で応援し続けます。

NEWS

## PK×プログラミング体験イベントを石垣島で開催

さくらインターネット株式会社と共同で、小学3〜6年生を対象とした「PK×プログラミング体験イベント」を石垣島にて開催しました。本イベントでは、FC琉球さくらの選手による「PK体験」と、さくらインターネット株式会社が提供する子ども向けプログラミング専用パソコンIchigoJamを用いた「PKゲームプログラミング体験」の2本立てプログラムを実施しました。

当日は、石垣市・竹富町から多くの子どもたちが参加し、スポーツとプログラミングという異なる体験に意欲的に取り組む姿が見られました。初めての挑戦にも前向きに臨む子どもたちの姿が印象的で、学びと楽しさを両立したイベントとなりました。

# TOGETHER WITH OUR PARTNERS

## 「シンカ（仲間）」と共につくる未来

**統合報告書制作をはじめ、
企業価値向上を支援する様々なサービスを提供する
株式会社エッジ・インターナショナルの
麻生佳孝社長をお招きして対談を行いました。
「サステナブルグロースパートナー」としての
1年間を振り返り、
これからの展望を語り合っていただいた内容を
ご紹介します。**

**村上：**私はパートナーとの連携を担う「パートナーシンカ部」の責任者をしています。「シンカ」は沖縄の言葉で「仲間」という意味です。チーム強化だけでなく、「沖縄全体をより面白くしたい。そのための仲間になってください。」という想いを込めています。

**麻生：**いい言葉ですね。当社は、情報開示とコミュニケーションの側面から、上場企業様を中心に企業価値向上を支援することを主な事業としています。近年では、企業価値の向上だけでなく、社会価値の創造にも取り組んでいきたいと考えており、FC琉球さくらとのパートナーシップは、その一環と位置付けています。私自身も、チーム強化だけでなく、沖縄という社会に貢献する「シンカ」でありたいと思っています。

**村上：**ありがとうございます。改めてパートナーシップを検討された経緯をお聞かせいただけますか。

**麻生：**当社は現在首都圏のお客様を中心にサービスを提供していますが、2024年はチャレンジの幅を広げるために九州や沖縄へ足を運び、様々な方からお話を伺っていました。その中で、沖縄の地元の方から「スポーツをはじめとした地域に根差した活動から入ってはどうか」と助言をいただいたのが、最初のきっかけです。そこから御社に関心を抱き、ご連絡を差し上げました。初めて村上さんにお会いした際には、「単なるスポンサーではなく、サッカークラブを通して地域社会に対してどのような価値創りができるのか、一緒にトライしてみませんか」とご提案をさせていただきましたね。

**村上：**あのご提案は、ちょうど私が「スポンサーシップの本当の価値とは何か」と模索していた時期だったので、まさに突き刺さりました。資金提供や企業PRといった文脈だけではない関係性のご提案に議論が本当に盛り上がり、ぜひ一緒にやりたいと強く感じたのを覚えています。

**麻生：**私自身も、沖縄に根差した形で愛されるクラブを目指す姿勢に強く惹かれました。この1年で、本当に良い関係が築けたと感じます。例えば、新入社員の入社式に選手の皆さんから応援メッセージ動画をいただいたのですが、泣くほど嬉しかったですね。応援してくれる仲間がいることが、新入社員にとって大いに励みになったと思いますし、当社に入社したことを誇りに感じてもらえたのではないでしょうか。

**村上：**このパートナーシップは本当に素晴らしいです。スポンサーシップの一つとして、SDGs研修を実施していただきましたが、そこから選手たちの姿勢が明らかに変わりました。選手たち自らが、地域貢献活動の中身を企画提案してくれるようなことが増えています。SDGs研修をきっかけに「地域貢献活動の意義」を選手自身が考えるようになったからだと思います。例えば子どもたちとのビーチクリーンでは、コミュニケーションをうまく取れない子どももいます。そういった状況を踏まえて、清掃後の砂浜で、一緒にサッカーをすることを提案してくれるなど、積極的に意見を出してくれています。これは本当に大きな変化です。また、内容そのものだけでなく、ビジネスパーソンから直接学び、意見交換をする機会を持てたこと自体も、彼女たちにとって非常に刺激的で貴重な経験だったと思います。

**麻生：**今後はぜひ、当社の社員もそのような活動に参加させていただけるといいですね。皆さんと共に価値を“創る”経験は、社員にとっても会社にとっても大きな財産になります。将来的には、サステナビリティでマネタイズできるような仕組みまで一緒に作ることができれば、選手の皆さんのセカンドキャリアにもつながる可能性もありますし、最高ですね。

**村上：**それはぜひ実現したいです。また、本冊子『Blooming』の制作もスポンサーシップとしてご提案いただきました。改めてお礼申し上げます。

**麻生：**チームが何を目指すのかをしっかり開示し、共感を得るためのお手伝いをしたいという想いがありました。価値ある活動は必ず評価されると信じていますし、そのためにこの冊子を大いに活用していただけると嬉しいです。

**村上：**情報開示は本当に大事ですね。私たちもパートナー企業さんに「創業者の想いや存在意義を発信しませんか」というご提案をしていきたいと思っています。魅力ある企業さんが多く、その価値をもっと世の中に知っていただきたいですね。「共に沖縄を面白くしていく」という「シンカ」の輪をより一層広げられるよう、頑張ります。

**麻生：**私の今の経営テーマは「プライド（誇り）」なんです。社員が自社に、そしてチームに関わる皆さんがクラブに誇りを持つこと。それが価値創造の原動力になると信じています。このパートナーシップを通じて、お互いの「誇り」を共に咲かせていきたいですね。

**村上：**私自身、子どもたちに夢を与える仕事に携われていることを誇りに感じています。選手のひたむきな姿が、子どもたちの「自分も頑張ろう」という心に火を灯す。その未来を、ぜひ私たちの「シンカ」として一緒に創っていただけたら嬉しいです。

COLLABORATION

### SDGs研修の様子（2025年8月12日実施）

江森郁実様（株式会社エッジ・インターナショナル 執行役員 ESGアドバイザリー部門長）から、FC琉球さくらの選手に対して、SDGsに関する基礎的な説明や、社会貢献活動の意義などについてご講演いただきました。

# 2025 SEASON PLAYER PROFILES

## FC琉球さくらの選手紹介

FC琉球さくらには、総勢25名の選手と、4名のスタッフが在籍しており、
「沖縄の未来をつくる女子チーム」の実現に向けて、日々切磋琢磨しています。

2025年11月30日現在

## FW

- No. 9 TAGASHIRA YOKO 田頭 陽子
- No. 14 MAKISHI HINA 牧志 妃菜
- No. 20 MORISAKO AYAME 森迫 あやめ
- No. 25 IWASHITA TAMARA 岩下 タマラ

## MF

- No. 6 MAKIYAMA REINA 牧山 麗菜
- No. 7 SAITO OLIVEIRA NATSUMI 齊藤 オリヴェイラ 夏美
- No. 8 KUNIYOSHI MARIKO 國吉 真梨子
- No. 10 ITO MINAKO 伊藤 美菜子
- No. 11 KOJIMA CHIAKI 小島 千明
- No. 13 YOSHIDA MIKAN 吉田 巳栞
- No. 15 SATO AMI 佐藤 亜海
- No. 16 NAKAMATSU KANAMI 仲松 叶実
- No. 17 SHIMOJO AYA 下條 彩
- No. 22 TAKAGI MOMOKA 高木 萌々香
- No. 24 IWASHITA KALENA 岩下 カレナ
- No. 28 SHINJYO MAI 新城 舞

## DF

- No. 2 MIYAZAKI RINA 宮﨑 莉奈
- No. 3 HASHIMOTO SHOKO 橋本 祥子
- No. 4 YONEMOTO MINORI 米本 みの里
- No. 5 TANAKA YUNA 田中 佑奈
- No. 18 YAMAZATO ARISU 山里 ありす
- No. 19 OGAWA YUKA 小川 優花
- No. 21 UNO REI 宇野 麗依

## GK

- No. 1 HAMADA MOMOKA 濵田 百華
- No. 23 LIAO WEN CHI 廖 玟淇

## STAFF

HEAD COACH
**HANADA AIKO**
花田 亜衣子

COACH
**SAITO OLIVEIRA NATSUMI**
齊藤 オリヴェイラ 夏美

COACH
**YAMAUCHI TOMOHIRO**
山内 智裕

ADVISER
**IKEDA HIROKO**
池田 浩子

# 2025 SEASON RESULTS

## 2025シーズン戦績

2024年に九州女子サッカーリーグ2部に
参戦したFC琉球さくらは、1年目から優勝を果たし、
九州女子サッカーリーグ1部に昇格。
次なる目標である「なでしこリーグへの昇格」に向けて、
2025年は準優勝という形でシーズンを終えました。

- 2024 シーズン
  - ・九州2部リーグ参戦
  - ・九州2部リーグ優勝、昇格
- 2025 シーズン
  - ・九州1部リーグ参戦
  - ・なでしこリーグ加盟申請
  - ・九州1部リーグ準優勝
- 2026 シーズン〜
  - ・最短でのなでしこ、WEリーグ参戦
  - ・トップリーグで活躍できる選手の輩出
  - ・日本代表（なでしこジャパン）に沖縄出身選手を輩出

### なでしこリーグ昇格を目指す

2025年シーズンは、九州女子サッカーリーグ1部において準優勝となりましたが、なでしこリーグの加盟基準を満たすことができず、昇格は翌年以降に持ち越されることになりました。国内最高峰の女子サッカーリーグである「WEリーグ」への昇格を見据え、FC琉球さくらは決して歩みを止めることなく前進し、進化し続けていきます。

### 2025 九州女子サッカーリーグ1部

第03節　開催日：4月20日
対戦相手：秀岳館高等学校
試合結果：5-0

第04節　開催日：4月26日
対戦相手：福岡大学サッカー部女子
試合結果：2-1

第10節　開催日：4月27日
対戦相手：東海大学付属福岡高等学校
試合結果：2-0

第07節　開催日：5月17日
対戦相手：神村学園高等部女子サッカー部
試合結果：1-1

第09節　開催日：5月24日
対戦相手：福岡J・アンクラス
試合結果：0-0

第05節　開催日：5月25日
対戦相手：柳ヶ浦高等学校女子サッカー部
試合結果：2-1

第01節　開催日：6月8日
対戦相手：琉球デイゴス
試合結果：1-0

第12節　開催日：6月14日
対戦相手：国見FCレディース
試合結果：6-2

第15節　開催日：7月6日
対戦相手：琉球デイゴス
試合結果：2-0

第16節　開催日：10月4日
対戦相手：国見FCレディース
試合結果：4-0

第17節　開催日：10月5日
対戦相手：秀岳館高等学校
試合結果：1-1

第21節　開催日：10月11日
対戦相手：神村学園高等部女子サッカー部
試合結果：0-3

第23節　開催日：10月18日
対戦相手：東海大学付属福岡高等学校
試合結果：4-1

第26節　開催日：11月9日
対戦相手：柳ヶ浦高等学校女子サッカー部
試合結果：1-0

第19節　開催日：11月23日
対戦相手：福岡大学サッカー部女子
試合結果：4-0

第28節　開催日：11月29日
対戦相手：福岡J・アンクラス
試合結果：1-2

### 2025 KYFA第43回九州女子サッカー選手権大会

1回戦　開催日：9月20日
対戦相手：ヴェルスパ大分レディース
試合結果：4-2

2回戦　開催日：9月21日
対戦相手：秀岳館高等学校
試合結果：1-0

代表決定戦　開催日：9月22日
対戦相手：ミゴカリッサ鹿児島
試合結果：0-0（PK3-4）

### 2025 KYFA第37回九州なでしこサッカー大会

1回戦　開催日：5月10日
対戦相手：国見FCレディース
試合結果：4-0

2回戦　開催日：5月10日
対戦相手：柳ヶ浦高等学校女子サッカー部
試合結果：1-0

準決勝　開催日：5月11日
対戦相手：東海大学付属福岡高等学校
試合結果：0-1

□：勝　■：引分　■：負

**2025シーズンは**

**11勝 3分 2敗で**

# 準優勝

**チーム内成績**（リーグ戦）

**得点ランキング**
仲松 叶実 …… **7得点**

**出場時間数**
山里 ありす …… **1,280分**
全試合フル出場

# FROM OKINAWA TO THE TOP

## 沖縄から女子トップリーグへ

FC琉球さくらは「女子サッカー日本一」を目指し、
日本女子サッカーリーグの最高峰である「WEリーグ」への最短での昇格を目標に、日々取り組んでいます。

### 私たちの現在地

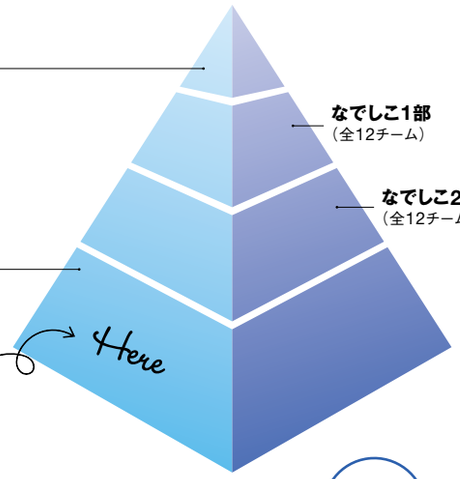
**WEリーグ**（全12チーム）

- マイナビ仙台
- RB大宮アルディージャWOMEN
- ジェフ千葉レディース
- ノジマステラ神奈川相模原
- アルビレックス新潟レディース
- INAC神戸レオネッサ
- 三菱重工浦和レッズレディース
- ちふれASエルフェン埼玉
- 日テレ・東京ヴェルディベレーザ
- AC長野パルセイロ・レディース
- セレッソ大阪ヤンマーレディース
- サンフレッチェ広島レジーナ

**九州1部**（全9チーム）

- 福岡J・アンクラス
- 琉球デイゴス
- 柳ヶ浦高等学校女子サッカー部
- 秀岳館高等学校
- 福岡大学サッカー部女子
- 東海大学付属福岡高等学校
- 神村学園高等部女子サッカー部
- 国見FCレディース
- FC琉球さくら

FC RYUKYU SAKURA




### 各リーグにおける売上比較

**WEリーグ**
（プロリーグ）
**1.5億～5億円**

＞

**なでしこ1部・2部・九州1部リーグ**
（アマチュア・セミプロリーグ）
**数千万～1億円**

売上に大きな差

※自社調べ

約50社に及ぶ、数多くのスポンサー様の温かいご支援のおかげで、私たちはここまで歩んでくることができました。しかし、私たちの目指す「WEリーグ」のチームと比べると、売上規模にはいまだ大きな差があります。だからこそ、競技面だけでなく経営面からも成長を重ね、女子サッカーのトップレベルを本気で目指していきます。

パートナーの皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### COLUMN 2031年開業予定のまちなかスタジアム

2031年、那覇市内でJリーグ規格スタジアム「まちなかスタジアム」が開業します。FC琉球さくらは、この新たな拠点をホームスタジアムとして、WEリーグの舞台で戦い、日本最高峰のプロリーグの熱狂を沖縄の街に届けられるようなチームになることを目指しています。「まちなかスタジアム」が、人々が集い、にぎわいを創出し、地域に新たな活力をもたらす“街の中心”となるよう、クラブとしても価値創造に貢献していきます。

# SOCIAL NETWORKING SERVICE

## SNSを通じた情報発信

FC琉球さくらでは、「選手自身がサッカーや人生そのものを楽しんでいる姿を発信することで、沖縄にとって身近で周囲を勇気づける存在となる」ことを目指し、選手のフォロワー数に応じて報酬を支払う「インフルエンサー手当」を導入するなど、SNSを通じた発信を積極的に行っています。

**Instagram**
@fcryukyusakura

**X**
@FCRYUKYUSAKURA

**TikTok**
@fc.ryukyu_sakura

# OFFICIAL MASCOT

## 公式マスコットキャラクター：ジンベーニョ

### WHO'S JINBE-NHO?

出身地：**沖縄**　将来の夢：**沖縄観光大使**
性格：**温厚で食いしん坊**　口癖：**～にょ**　年俸：**パイナップル6個**
契約期間：**1年**　ポジション：**ファンタジスタ**

某水族館で生まれたジンベエザメの男の子。
外の世界でサッカーすることを夢見ていたある日、
ニョキっと足が生える魔法のシューズを神様からさずかりました。
沖縄を盛り上げるため、ときに転びながら、奮闘中。
FC琉球の公式マスコットもつとめるがんばり屋さんです。

公式サイト
https://jinbe-nho.okinawa/

ジンベーニョのイラスト利用申請
https://fcryukyu.com/news/53458/

FC RYUKYU
SAKURA

お問い合わせ先
Tel. 098-987-1913 Email partner_shinka@fcryukyu.com